



学校だより

箱根町立箱根の森小学校

TEL 0460-82-3038

令和8年6月11日発行

学校教育目標

郷土を愛し、**学ぶ意欲**をもち、心豊かで、たくましく生きる児童の育成

文責：川口宏美
第3号

学校公開日～ご参観いただき、ありがとうございました～

6月4日に、今年度2回目の学校公開日がありました。

多くの保護者・地域のみなさまにご来校いただき、また、子供たちが一生懸命に取り組む様子を見ていただけたこと、大変うれしく思います。ありがとうございました。

子供たちは、ちょっと恥ずかしそうにしながらも、いつも以上に自分の力を発揮していました。森小のスローガン、「自分の力で**挑戦**」する姿と「友達と**協力**しながら学ぶ」姿に向かってがんばっていた子供たちの様子を一部紹介します。

森の子級 (外国語)

「ふくわらい」のゲームを通して、顔のパーツや右・左・上・下の英語での表現を学びました。友達が手に取ったパーツを見て、「eyeだよ。」「もう少し、Right Right」「あ～少しLeft」と、お互いが声を掛け合います。友達のアドバイスを受けて完成した顔に大満足！みんなで楽しく学習できました。



1年生 楽しく歌おう (音楽)

歌うこと、曲に合わせて体を動かすことが大好きな1年生。「校歌」や「愛唱歌」を繰り返し練習しています。1年生の音楽の学習が始まると、大きな歌声が職員室まで聞こえてきます。

この日は、6月の歌「虹」を手話を付けて練習。上学年のお手本をテレビで確認し、体を大きく動かして楽しそうに歌っていました。



2年生 長さくらべ (算数)

先生とのジャンケンゲームを通してつないだ長さの違う3色のテープ。クラスの誰のテープが一番長いかを1年生の時に学んだ「長さを比べるときは、そろえたり重ねたりする」をもとに、考えました。端をそろえて並べたテープの前に集まって、気が付いたことを、みんなで確認しながら、長さの比べ方について考えました。



3年生 ちょうどよくなって? (道徳)

「黄金の魚」は、「節度・節制」をテーマにしたお話です。助けてもらったお礼に、おばあさんの望むものを与えていく黄金の魚でしたが、おばあさんの要求は、「もっと、もっと」と高まります。最後は、与えられたものすべてを失う結果になるのですが、その訳について、友達の考えをよく聞いたり、まとめたりしながら話し合いました。



うらへつづきます

4年生 歯磨き指導（総合）

「歯と口の健康週間」の取組の一つとして、小田原保健福祉事務所から講師を迎えて「かむこと」に関わる学習をしました。実際にガムを噛み自分の口の中の変化を体験しました。

よく噛むと唾液もよく出ること、その唾液が食べ物をおいしく感じさせることを学びました。



5年生おいしくできるかな（家庭科）

4年生と合同で宿泊学習に出掛ける5年生。夕食で食べるカレー作りの練習として、家庭科の「野菜のゆで方」の学習を発展させて野菜スープ作り挑戦しました。4年生に作り方を教えられるよう、調理に必要な作業を一つ一つ確認し、友達と協力しながら熱心に取り組みました！



6年生 箱根を知ろう（総合）

箱根の歴史について、さらに学びを深めるために、箱根東海道石畳をわらじで歩く学習を行います。この日は、石畳を歩くためのわらじを町生涯学習課の方のご指導の元、保護者と一緒に作りました。

わらをねじったり組んだり。編む難しさや姿勢保持に苦戦しながら完成させました！



English Day！！

毎週木曜日は、「English Day」です。英語での表現に慣れ親しめるよう、あいさつ、朝や給食の放送などを英語で行っています。給食時の放送では、その日の献立の紹介がありますが、放送担当や英語専科の先生に、英語での表現を教えてもらい、発音を練習しながら放送しています。

大人だと、発音を間違えないかと躊躇しがちですが、子供たちは、繰り返しの学びで、声に出すことが自然なことになっていて感心します。



おまけ 箱根を知ろう【はこねタイム職員版】

自分たちの住んでいる箱根のよさや歴史を知り、そのよさを大切にすることを育むのは、子供たちばかりではなく、私たち職員も同じです。その取組の一つが、「わら打ち」です。6年生が作るわらじに使用するわらを事前にやわらかく、編みやすくするための準備を、生涯学習課の方と一緒にしています。

当時、使用していたものと同じ木槌（ずっしりとした重みがあります）を使って、30本程度のわらの束をくたつとなるまで打ちます。なかなかの重労働ですが、箱根の歴史を知るため、子供たちのため、職員一同、力を合わせてがんばります。出来上がったわらじは、本当に丈夫で、コケがあり滑りやすい石畳がとても歩きやすく、わらを打った時の苦勞が感動に変わります。大人になっても、体験したからこそその学びの場を大切にしていきたいです。

